

黒田清輝氏の巴里だより

先頃文部省より美術教育取調の命を受け目下佛國に滞留中なる
黒田清輝氏の情報左の如し

(前略) 學校の爲の取調は少しづつ始めて居るが何分今は休暇中
で充分な事は出来ない▲繪畫と彫刻のコンクール、ド、ロームが
濟んで其成績を見た どうも此處の美術學校風の教育はいかにも
型に入れた様で面白くない▲博覽會の美術館と云ふのは非常に廣
大なもので佛國は勿論ハンガリア、オ、ストリア、伊太利、獨
逸、イスパニア、イギリス、アメリカ合衆國、日本、オランダ、
ベルジック、ロシア、^{〔ボ〕}ホルトガル、ノルヴェエ、ペルー、ルーメニ
ア、スエーデン、スキス、などの繪畫彫刻物が一杯で二度三度で
はとも見盡くす事は出来ない これ等の新らしい製作品の外に
佛國の百年以來の諸大家の製作品をならべた^{〔一字欠落〕}などもある 實に
盛んなものだ こんなに方々の國の美術品を一つに集めてくらべ
て見るとます／＼日本の品物のつまらないのに驚く 吾々は中々
ぼんやりして居る譯には行かない 此博覽會が濟んで色々の議論
家が日本へ歸つた時には随分やかましい種々な^{〔ちく〕}理窟が出ることだ
らうが先づ議論より仕事が第一だ どうしても少し眞面目に勉強
しないとだめだ ▲岡田和田いづれも達者で暮らして居る、岡田
は今迄何にも學校へ送らなかつたが三年分を愈近日に送り出すか
ら其積りで居て呉れ ▲岡田和田等は今迄は宿屋住居をやつて居
たが此十日頃からは一つのアトリエを借りて新たな生活方をやる
ことに勧めて置いた これは他日の在巴里日本美術研究所とでも
云ふ様な我美術學校の出張所の下ごしらへの積だ ▲此處の市

中をぶら付くと學校の参考品に買つて歸りたい古畫などが比較的
に安くて澤山あるけれども迎ても力が及ばないから手に入れる分
には行かない 力に及ぶ丈の品を二つ三つは手に入れたが参考品
と云ふものが二つや三つ位あつても餘り役には立たない さうし
て貧書生の悲しさは僅二つ三つの畫を買つた爲めにもう小使錢に
不自由を感じると云ふ姿だ こんな事ではだめだ ▲此度の巴里
の生活は甚だ面白くない(氣持の上から) 支那との戦争後は歐
洲で日本人を見ても支那人といふ奴は無い様になつたと聞いて居
たが夫れは全くのうそだ やはり支那人とぬかす奴が多いので困
る云々

なお、右博覽會に關して日本政府が作成した報告書は明治三十五
年三月に『千九百年巴里万国博覽會 臨時博覽會事務局報告』と題
して農商務省から発行されているが、美術の部の編集は専ら久米桂
一郎が担当した。

⑧ 関西教育大会への出品

本年七月三十一日より一週間富山市で関西教育大会が開かれ、同
会々長檜垣直右の依頼により久保田鼎校長は左記の作品を本校より
出品した。

日本画科

(卒業制作) 下村晴三郎「熊野御前花見」、天草友雄「悉達太子」、
高橋勇「秋景山水」、斎藤新助「晋文公受塊」、御船彦次郎「深
林遊猿」、移川三郎「秋景山水」

西洋画科

(平常成績油画) 窪田喜作「夏の夕」、矢崎千代治「夏」、紫崎恒信「秋の夕」

彫刻科

(卒業製作木彫) 長愛之「少女鶏を愛す」、船井登久太郎「老爺」、前島交吉「汐干狩」

図案科

(平常成績) 千頭庸哉外四人「蒔絵文台下図五種」、小檜山右近外四人「笠翁式書棚下図五種」、(卒業製作) 吉田衡「建築図案」、松長長三郎「同上」、大槻才吉「同上」

彫金科

(卒業製作) 山本正三郎「打出し人物円額」、海野豊三郎「出山釈迦立像」、滝本友太郎「江の島夜景額図」

鍛金科

(卒業製作) 山下英夫「象置香炉」、石田英一「群兎置物」、曾根銳「仙蓋瓶」

鍍金科

明治二十五年六月東京美術学校製作「着色標本」十二点、(研究製作) 桜岡三四郎「聖観音」、(卒業製作) 津田信夫「婦人愁思の状」

漆工科

(卒業製作) 蒔田実「螺鈿秋草蒔絵紙箱」、沢木彦門「江辺に千鳥蒔絵茶箱」、三村耕三「松風蒔絵澡豆箱(洗粉)」、前川佐一「風前に秋草蒔絵手箱」、藤岡金吾「龍田川蒔絵硯箱」

(明治四十四年火災焼残り書類自明治三十三年一月私立学校、会社往復至同三十四年十二月私立諸会等書類)による。

なお、右引用書類には作品の寸法、価格、製作年、作品解説等、細かい記載があるが、ここでは割愛する。

⑨ パレット倶楽部

明治三十三年二月二十二日付『二六新報』に次の記事が載っている。

○パレット倶楽部 東京美術学校西洋畫科在學生並に卒業生及び同校西洋畫關係者は此度パレット(調色板の意)倶楽部なるものを組織し技藝家の徳義及び品行上の制裁は勿論技術の錬磨を旨とし相互の親密を計らん爲め毎月一回づゝ會合し三ヶ月毎に製作品を集めて之を鑑評し優等者へは金員を贈與する仕組にて去る土曜日其第一會を某所に催し規約を定めたる後豫て調製し置きたる美麗なる名簿へ各々自署して散會せりと 誠に同倶楽部の如きは技術家にとりて最も有益なるものなるべし

⑩ 无声会

明治三十三年三月、川端玉章門下だった若手画家たちが无声会を結成した。会員は福井江亭、島崎柳塙、渡辺香涯(明治三十年本校卒)、結城素明(同)、大森敬堂(同三十二年本校卒)、平福百穂(同)ら少数であったがのちに石井柏亭も加わり、本年三月の第一回展以降大